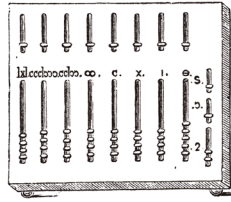


**abacus** -i, m (原義は、石・大理石・土器などの矩形の厚板)



図A



図B

- 1) 食器棚. 図A 大理石または青銅製の2段式の棚. 台板にはいくつか凹みがあって, 丸底の容器でも安全に置くことができた. 図は陶製ランプの意匠を写したもの.
- 2) そろばん. 図B 日本のそれと同様, 10進法で計算した. 右2桁は分数, 左7桁は整数を入力する. 左端のⅩが1,000,000の単位. 図は古代の遺物. なお, 東京理科大学近代科学資料館に, 3世紀頃の青銅製のそろばんのレプリカが展示されている.
- 3) 建築 アバクス. 円柱の柱頭上部の平板. ⇒ CAPITULUM.

**acanthus** -i, m



## accubitio

アカンサス。ハアザミ属の草本。その葉形は陶器・彫刻・刺繍などの他、コリント式柱頭の装飾モチーフとして好んで用いられた（アカンサス葉飾り）。図は、アントニヌスとファウステイナの神殿の柱頭に刻まれた acanthus。

## accubitio -ōnis, f



食食用臥台に身を横たえること。上体は左ひじを支えに少し起こした状態に保ち、自由に動かせる右手で飲食物を取った。図はポンペイの絵画より。⇒ TRICLINIUM

## acerra -ae, f

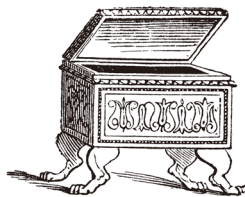


図 A



図 B

## 香箱.

図A この香箱は神官の従者が犠牲式を行う祭壇まで持ち運んだ。香は火のついた祭壇に振りかけられた。図はローマ市のカピトリーニ美術館蔵のレリーフより。

図B この従者は右手に献酒用の水差しを持ち、左手に犠牲獣の毛皮を掛けている。この図も古代のレリーフを写したもの。

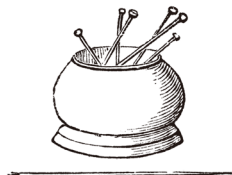
acrātōphorum *-ī, n*

生酒を入れておく甕<sup>かめ</sup>。食卓に置かれた acratophorum の生のぶどう酒は、水と混ぜるための甕 (CRATER) に移された。図の大理石製品の胴には、ブドウの枝葉の装飾が施されている。

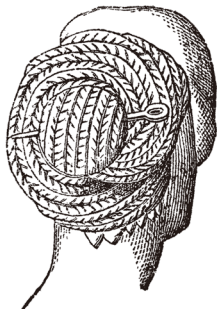
acrōtēria *-ōrum, n pl*

建築 アクロテリオン。ペディメント (FASTIGIUM) の両端や頂上にある彫像用台座。図は、アントニヌス・ピウス帝の后で死後神格化された大ファウスティナ (140 年没) の神殿を描いた青銅貨の裏面。両端の台座に立つのは勝利の女神ウクトリア (VICTORIA)。神殿内には王笏<sup>おうしやく</sup> (SCEPTRUM) を持つ神の像が見える。銘: S(ENATVS) C(ONSVLTO) 「元老院の決議により」。

**acus** -ūs, f



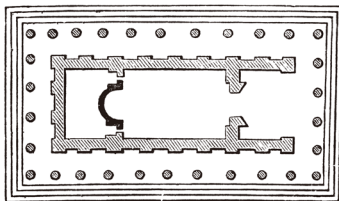
図A



図B

- 1) 針. 図A ポンペイ出土の針入れと約 4cm の縫い針.
- 2) ヘヤーピン. 図B

**adytum** -ī, n

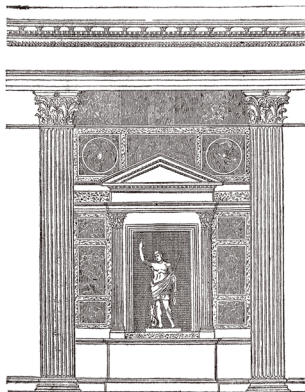


**至聖所, 聖域.** 神官以外は出入りが許されない神殿の内奥部. この, かつてローマ市のマルケルス劇場近くにあった小さなドリス式神殿の平面図では, 黒塗りの半円の左側の部分. その右側の, 神像が安置される cella と呼ばれる部分へは, 半円両端にある扉で行き来する.

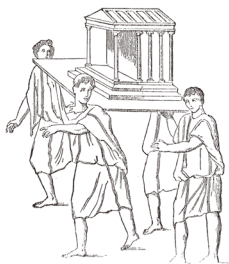
## aedicula -ae, f



図A



図B



図C

## 小神殿.

図A 神殿の神像安置所 (cella) の内部に設けられた小神殿。小なりといえども、円柱とその上のペディメントが備わっている。図は、ウィテリウス帝のデナリウス銀貨(69年)の裏面の図像で、カピトリヌス丘のユピテル神殿内の aedicula とその中に坐すユピテルが描かれている。彼は右手に3本の雷電を持っている。

図B ローマ市のパンテオン内部通路の壁面に彫り刻まれた aedicula.

図C aedicula は荷車に乗せたり、人々の肩に担いで巡行するこ

## aegis

ともあった。図はポンペイの絵画より。なお、ペトロニウス『サテュリコン』29の「大きな戸棚(ARMARIUM)に aedicula が置かれ、その中に銀製の家の守護神(LARES)と大理石のウェヌス像が安置されていた」という一文中の aedicula も、移動可能なほどの大きさであったらう。

### aegis -idis, f



図A



図B

**神話** アエギス, アイギス.

**図A** メドゥーサ (Medusa) の首が付いたミネルヴァ (Minerva) 女神の防身具。メドゥーサは、その姿をまともに見た者を石に化すという女怪。女神が左腕を伸ばすと、aegis はあたかも盾の動きをするかのようなのである。図はヘルクラネウム出土の女神像(ナポリ国立考古学博物館蔵)。

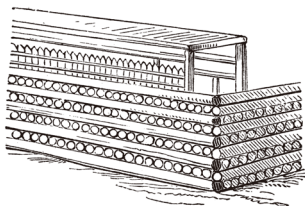
**図B** ギリシアの画家・彫刻家はこのように aegis を胸当てとして表現した。図は陶製ランプの意匠を写したもの。

**aequitās** -ātis, *f*



公平, 公正. 図は, アントニヌス・ピウス帝のデナリウス銀貨上の神格化された Aequitas. 女神は右手に天秤, 左手に長いさお尺 (pertica) を持つ. 銘は AEQVITAS AVG(VSTA) 「<sup>かしこ</sup>畏き公正(女神)」.

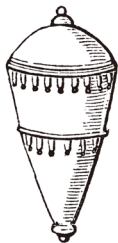
**agger** -eris, *m*



堡塁, 塁壁. 多くの場合, 陣営の周りに掘った壕 (fossa) の土砂を, 壕の内側に積み上げて固めた土塁. しかし, 土砂の利用がかなわぬ場合は, 図の, トラヤヌス帝の記念柱のレリーフに見られるように, 木材と柴などで築かれた. agger の上に一列に並べて立てられた杭は防柵 (vallum), その奥は兵士を守るための板張りの回廊.

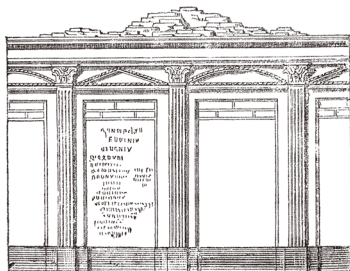
**alabaster** -trī, *m*

**alabastrum** -ī, *n*

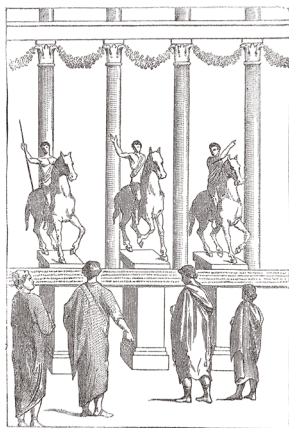


洋ナシ形の香油入れ。プリニウス『博物誌』36.60には「縞大理石 (onyx) 製の alabaster が香油の保存に最適とされている」とある。図は古代の遺物。

**album** -ī, *n*



図A



図B

白色掲示板。(特に)法務官の告示板。白い漆喰を塗った壁面の一部などに、公的な告示や私的な広告その他を書き付けた。

図A ポンペイの「エウマキアの建物」の外壁。ここに記されていた広告文は、発掘後、消滅した。



図B ポンペイのフレスコ画を写したもの。3体の騎士像の台座に取り付けた掲示板には、官報(akta)が記されていたのであろうか。

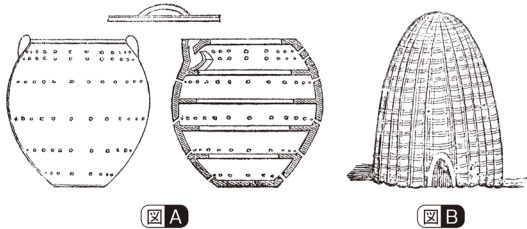
A

**allocūtiō** -ōnis, *f* (adlocūtiō ともつづる)



将兵への演説。図はガルバ帝のセステルティウス真鍮貨(68年)の裏面。金属製の鷲がとまった軍団旗(AQUILA)やその左の中隊旗が翻る中、武装した将兵を前に皇帝が壇(suggestum, suggestus, tribunal)の上から、一同の士気を鼓舞する演説を行っている。銘: ADLOCVTIO, S(ENATVS) C(ONSVLTO)「元老院の決議により」。

**alveāre** -is, *n*



ミツバチの巣箱。

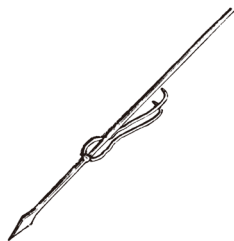
図A ポンペイ出土の青銅製の巣箱。内側は5層から成り、多数の小穴が開いている。しかし、熱のこもりやすい金属や土器の製

## amentum

品よりも、コルク・籐・麦藁などの植物の加工品のほうが望ましいとされた。

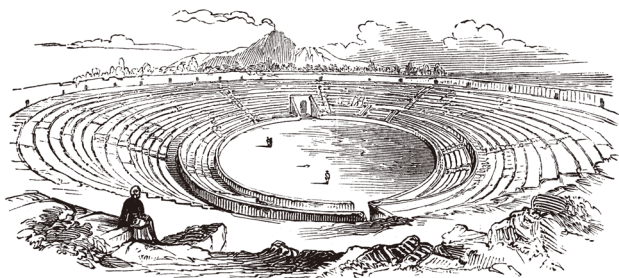
図B レリーフに表されたかご細工の巢箱。

## āmentum -ī, n



とうてき  
投擲用の紐。投げ槍の柄の重心あたりに結びつけ、投擲にはずみをつけて槍をより遠くに投げられるようにした。図は陶画を写したものの。

## amphitheatrum -ī, n



円形競技場、円形劇場。長円形の闘技場 (arena; 原義は「砂、砂地」) の周りをぐるりと取り囲むひな壇式観客席 (cavea) を設けた長円形もしくは円形の大建造物。もともと剣闘士の闘技を見せるための施設であったが、見世物としての野獣狩りや、ときには模